



繪入
 一本花打



18
 1742
 /



門へ
1742
巻 1



体ノ形一序

此年迄の事と云ふ所の事なり。此の形は、
乃下枝と云ふ所の事なり。此の形は、
條の事と云ふ所の事なり。此の形は、
一、此の形は、此の形は、此の形は、
く、此の形は、此の形は、此の形は、
と、此の形は、此の形は、此の形は、
ど、此の形は、此の形は、此の形は、
こ、此の形は、此の形は、此の形は、
内、此の形は、此の形は、此の形は、
小、此の形は、此の形は、此の形は、



せよと仰られられた。祖父母と母とを祀りてなむ
されしありともありしなりと申せられた。魚洗が
い川魚の案のりふくくつたれがうめかしの時を
つくいまれを呼し休和尚の教を申しておぼ
なむとくひの地とておぼしむる我も人もそ
とをのりしは海よりありぬも面白やうと申
たふくたれくたふくたの善紙の難成の難
のぞき書付のりくたれくたのりくたのり
くたのりくたのりくたのりくたのりくたのり
そくたのりくたのりくたのりくたのりくたのり
なむくたのりくたのりくたのりくたのりくたのり

魚ありた。い川魚の案のりふくくつたれが
うめかしの時を呼し休和尚の教を申しておぼ
なむとくひの地とておぼしむる我も人もそ
とをのりしは海よりありぬも面白やうと申
たふくたれくたふくたの善紙の難成の難
のぞき書付のりくたれくたのりくたのり
くたのりくたのりくたのりくたのりくたのり
そくたのりくたのりくたのりくたのりくたのり
なむくたのりくたのりくたのりくたのりくたのり

上巻

下

休むべし。叔父の難。叔一人とて思ふ。此
 程の持持。病の憂。世の人心。此程の暇
 さは。いふこと。人は。病の。休む。此の。病
 集。くつ。こと。も。あ。む。と。ね。む。と。い。ふ。こ。と。は
 ば。い。は。い。代。の。た。り。ま。は。ぬ。ら。ぬ。と。い。ふ。こ。と。は
 ち。も。書。い。ら。る。と。い。ふ。こ。と。は。文。の。い。ふ。こ。と。は。書。い。ら。る
 秋。も。人。も。い。ふ。と。い。ふ。こ。と。は。後。と。い。ふ。こ。と。は。後。と
 柳。枝。の。い。ふ。こ。と。は。風。の。い。ふ。こ。と。は。風。の。い。ふ。こ。と。は。後。と
 一。休。む。べ。し。と。い。ふ。こ。と。は。一。休。む。べ。し。と。い。ふ。こ。と。は。後。と
 る。い。ふ。こ。と。は。だ。と。い。ふ。こ。と。は。だ。と。い。ふ。こ。と。は。後。と
 是。と。い。ふ。こ。と。は。是。と。い。ふ。こ。と。は。是。と。い。ふ。こ。と。は。後。と

一休はあ一書之上目錄

- ① 一休はあ一書之上目錄
- ② 一休はあ一書之上目錄
- ③ 一休はあ一書之上目錄
- ④ 一休はあ一書之上目錄
- ⑤ 一休はあ一書之上目錄
- ⑥ 一休はあ一書之上目錄
- ⑦ 一休はあ一書之上目錄

らあつたういげはるれを被い何と志みふがーP
く。二休やまひ。されはごよ教をとなつてならあ
はる。その方こそを被いづらとあく。しんばの
後さられらる程おとあざけられり。後れは
明書申わると被ふよりよく。二休を被いふと
かろ。被せあしたく。くうが。入口のにお小橋を
あさりたれ。橋のつめお。これとあひ。書立る
い。と。と。は。の。あ。は。ん。が。り。

書付くる。書立る。東の。何。と。く。二休とあ。つ
ま。か。の。入。の。く。は。あ。る。れ。橋。の。れ。と。あ。ん。く。い
橋。と。う。づ。い。入。る。二休。い。は。る。る。れ。二休

中。と。は。は。い。け。と。う。く。の。あ。い。く。は。ら。る。
まん中。と。は。は。い。け。と。う。く。の。あ。い。く。は。ら。る。
と。く。中。と。あ。ら。ら。り。入。ま。い。れ。る。あ。ん
せ。い。れ。と。あ。ら。ら。り。入。ま。い。れ。る。あ。ん
あ。ら。ら。り。入。ま。い。れ。る。あ。ん。中。と。は。は。い。け。
と。は。は。い。け。と。う。く。の。あ。い。く。は。ら。る。
小。橋。と。あ。ら。ら。り。入。ま。い。れ。る。あ。ん。後。れ。は
と。あ。ら。ら。り。入。ま。い。れ。る。あ。ん。二。休。の。あ。い。く。は。ら。る。
け。と。う。く。の。あ。い。く。は。ら。る。小。橋。と。あ。ら。ら。り。入。ま。い。れ。る。
後。れ。の。あ。い。く。は。ら。る。と。あ。ら。ら。り。入。ま。い。れ。る。あ。ん。二。休。
一。休。の。あ。い。く。は。ら。る。



とてしまひてござんらいかゝるを察し
そぞあがらぬ人しといふも
とゆりまはしめども其申すも其言はれぬくふ
とていふみられくるところ板の裏と申すかたり今一
か敷とてわとるひに体はほこりて其言はれぬ
とてかたりめくくわとるもいふいふいふいふ
且那人とれぬ衣りて其言はれぬ
はりてとたりていふとていふとていふとて
ふいふとていふとていふとていふとていふとて
かゝるもいふとていふとていふとていふとて
うに体とていふとていふとていふとていふとて

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and occupies the right-hand page of the manuscript.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise from the previous page. It includes a section marked with a circled number '2' (②) and contains several lines of dense script.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise from the previous page. It includes a section marked with a circled number '2' (②) and contains several lines of dense script.

て一休とくもはふの下の後入田とくはらひ
のりとしらわまとも物落乃とあまきとてせん
ぞとくよひのくもやせんまふり。然もたぐ人
しうくいまう一由さびあり

③一休和尚の宗統とせしむる別號と一休と名
付ぬいさう小或人まぐ一休と名付たふはふの
さいもやゆつとくろひのせい。社がひめさるる
ともぐ一休よふらふとくあわさるればつうくも
なまふりふし。まふらふとくあつとく

いふちよりむらちへつう一休
なまふりふし。まふらふとくあつとく

とわさうしなれははれまぐ板と面白さうらふ
や。ふ海を海ははくあつとくあつとくあつとく
縁なれははれまぐ板と名付たふはふの
目録とありて備ふる。一休松とくし合点とありて
何ゆふあつとくあつとくあつとくあつとく
とく。そ何れははれまぐ板と名付たふはふの
がふ海を海と名付たふはふの
や。ふ海を海と名付たふはふの
何れははれまぐ板と名付たふはふの
ふよくゆりうらふとくあつとくあつとく
を風とてふりゆつとくあつとくあつとく

正可やがこれおがしと今びらりもきしと一首
ゆくんとすれなれなれいささくあうらう所
しとの久は俗より

らちらじらぢら一やまをこくとさく時ち
十まん物ごとくまんまこととあう

とけりまればと休とさうと若くもく。鹿餅つ
いとさうとびぬひのふたれ。あうらうもゆり
よとて休居士といふ人多るに。お若くも人。もて休
乃ら休といふれ。とて休といひく若くもく。藤条法
飯も飽はれ休宿夜産を。喉は休と平二満は幻
休か念ふ所も幻休とすれなれ。お若くもく

これ安承の法とそれと女時の不依の世と足はゆり
とさうは格承の圓とと敷く。あうらうもゆり
んとゆると首よけくつとくつとくつとくつとくつ

首も竹の時細弱
大醫吟詩人石病
守備ぬら抱官因
安樂延年万事休

とゆりしとくつと。一体のちととひく。今もさうなり
しむりしと敷く。まは人。や。一体の二まとた
つひく。とて休とさうとさう。海はひもあつては
と幸しく強し。とさう。それ幸るると。あうらうも
とて休乃圓と平二満とはいふあうらう。とて休
とさう乃圓とさう。とさう。合点まつて。あうらう

上巻

と云ふしつ子やたわわらふおとせ乃よりこのまゝ板
とつらうしつ子やたわわらふおとせ乃よりこのまゝ板
とつらうしつ子やたわわらふおとせ乃よりこのまゝ板
とつらうしつ子やたわわらふおとせ乃よりこのまゝ板

④一休の対は、塔川朝也、射親、あまのこころうらな、
よきとやほいふとまやましくうらな。一休の意なるは
ひとまなびくは、呼吸といふも、まなびくは、呼吸といふ
乃、意をへうらまひくは、呼吸といふも、まなびくは、呼吸といふ
一休の意なるは、呼吸といふも、まなびくは、呼吸といふ
呼吸といふも、まなびくは、呼吸といふも、まなびくは、呼吸といふ
あんならういづくも、まなびくは、呼吸といふも、まなびくは、呼吸といふ

回には何うも何うも
あつらひげくともあつら
いんどうとつらうらや
ちりくろはつらん
系には何うも何うも
よふらあやえへくと信
なんどうあまのこころ
とつらうしつ子やたわわらふおとせ乃よりこのまゝ板

物にうつくは、あつらひげくともあつら
あつらひげくともあつら
いんどうとつらうらや
ちりくろはつらん
系には何うも何うも
よふらあやえへくと信
なんどうあまのこころ
とつらうしつ子やたわわらふおとせ乃よりこのまゝ板

一物もあまのこころ
あんならういづくも

上巻

上

かみと頼りくまひのよくなるといふ一まのり
まぐくころた溪乃まをいれらるゝまれのせん
と海平しきとくおありのちりまぞと海り
がよとことと打つりしてたよりわんらん
より。仏よはつてありくろそいし
一休をわのいを抱れとおありめ
りありそくぶんぞりより目とひらげ
く仏のありしと乃まの親あおとろ
ふしんを及弟しとくそりなり

④一休をあるたさまよと云ふは
しけりしをの村を清原乃由能地

とんを射しつふゆき百姓成ひと抱せ
姓た是とるびとせんといひめ
老人やまはひと百姓乃あり
といはらちらなる。はぶあ
んとく新林とてこころあ
ふせあ百姓を一休と持け
た乃とるれとてたのこ
くあひのよとゆつと
もへるうび。是と抱く
よれ中八月ふしと
を清原乃はたをさり

上巻

十四



とうとうとてはとつらうなれど建村の百姓の徳のよ
 い先おちり給りらるる。さひ色もよびとやなれ。二休ひ
 さうい奇みも持し。傷られぬゆりま。いおろくせん
 きーくれたが。よりおの付らる男は。あれば。兼し。あ
 かり。不自由あり。せひ。あは。は。あ。と。げ。な。れ。近
 湯。あ。る。ん。ど。き。は。い。う。あ。る。ん。ど。き。と。傷。あ。ら。ぬ。け
 る。百姓。中。け。り。いた。さ。よ。本。乃。二。休。乃。湯。他。ま。く。め。と。や
 せ。ば。その。教。を。あ。る。て。め。は。は。ま。し。い。ん。人。の。今。乃。世。ま
 覚。く。は。い。と。奥。で。給。ひ。く。お。ろ。く。る。先。と。下。さ。れ。ら。る。と。い
 六。開。乃。地。務。と。い。て。あ。く。作。り。し。時。亦。あ。る。と。い。り。あ。い。い。し。毎
 服。と。い。う。る。は。は。備。あ。つ。た。の。び。と。い。う。り。く。い。は。は。は。は。

上巻

下巻



大なる善法よ。小使にけり。けり。の。後。に。世。に。法。
 師。め。り。が。な。る。と。我。も。く。と。な。る。か。ん。く。と。進。け。は。石。
 入。道。の。り。あ。ひ。く。扱。も。の。り。と。や。一。休。は。も。め。り。の。り。
 か。の。の。り。と。法。の。と。扱。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。
 小。使。と。わ。い。い。あ。り。又。休。と。な。る。と。ゆ。り。と。な。り。れ。お。
 し。る。後。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。
 わ。い。い。と。わ。い。い。と。わ。い。い。と。わ。い。い。と。わ。い。い。
 夫。下。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。
 一。休。は。も。め。り。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。と。法。の。り。
 度。軍。服。と。わ。い。い。と。我。も。く。と。わ。い。い。と。わ。い。い。と。わ。い。い。

